

## 宇都宮市立豊郷中学校 第2学年 生徒質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○質問番号(3)「家で、学校の予習をしている」、質問番号(29)「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」において、肯定的回答をした生徒の割合が市や県の割合を10ポイント以上上回っており、次の時間の授業に興味・関心をもっている生徒が多いことが分かる。

質問番号(1)「家で、自分で計画を立てて勉強している」において、肯定的回答をした生徒の割合が市や県の割合を8～10ポイント上回っている。これは、毎日自主学習に取り組んでいる成果と考えられる。質問番号(4)「家で、学校の授業の復習をしている」、質問番号(5)「家で、テストで間違えた問題について勉強している」、質問番号(6)「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」、質問番号(25)「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」、質問番号(35)「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」において、肯定的回答をした生徒の割合が市や県の割合を5ポイント以上上回っている。このことから、学習内容を見直し身に付けていこうと努力する様子が見える。また、各授業でグループ学習などを取り入れており、自分の意見を積極的に発表する場が多く、自信がついてきたと考えられる。

質問内容(8)(9)「学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」において、平日では2時間以上、土日では3時間以上と回答した生徒の割合が、市や県の割合と比べて10ポイント以上上回っている。家庭での学習を努力している様子が見えるので、今後は効果的な学習方法について考えさせていきたい。

質問番号(108)「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている」、質問番号(111)「理科の授業で学習したことを普段の生活で活用できないか考えている」において、肯定的回答をした生徒の割合が市や県の割合を5～8ポイント上回っており、学習したことを学校以外の場面でも活かそうとしている様子が見える。

質問番号(109)「数学の授業で問題を解くときには、言葉や数、式だけでなく、図や表、グラフなどを使って考えるようにしている」では、肯定的回答をした生徒の割合が市や県の割合を7～8ポイント上回っており、自分が問題を考えやすい方法を工夫していると考えられる。

●質問番号(7)「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」、質問番号(33)「授業を集中して受けている」、質問事項(55)「時間を上手に使うことを、心がけている」において、肯定的回答をした生徒の割合が市や県の割合を2～3ポイント下回っている。生活の中に学習の時間をきちんと位置付けるようにしていく必要がある。

質問番号(41)「自分はクラスの人の役に立っていると思う」、質問番号(42)「学校の役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」において、肯定的回答をした生徒の割合が市や県の割合を4～5ポイント下回っている。係活動の充実を図ることで、クラスでの有実感を感じられるようにする必要がある。

質問番号(23)「毎日の生活が充実している」、質問番号(44)「毎日、同じくらいの時間に寝ている」、質問番号(45)「早寝、早起きを心がけている」、質問番号(67)「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」において、肯定的回答をした生徒の割合が市や県の割合を5～7ポイント下回っている。毎日の生活リズムを整えるとともに、世の中のことに関心をもてるよう朝の会や帰りの会で触れたり、各授業で関連する内容を取り上げたりするようにする。

質問番号(12)「1か月に、何冊くらい本を読みますか」において、3冊以上と解答した生徒の割合が市や県の平均を約5ポイント下回っている。

「次の教科の学習は好きですか」という質問内容で、社会と英語に関して肯定的回答をした生徒の割合が市や県の割合を8～10ポイント下回っている。さらにその2教科で、「次の教科の授業内容はよく分かりますか」という質問内容で、生徒の肯定的回答の割合を10～20ポイント下回っている。

## 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
①目標を明確にした指導の充実 ②分かる授業・活気あふれる授業の展開 ③望ましい学習態度の育成 ④意欲的に学習できる教室内外の学習環境の整備	・生徒が主体的・対話的に学べる学習形態・学習過程・学習指導の工夫 ・相互授業参観による授業力向上の推進 ・家庭学習の充実 ・GIGAスクール構想に基づくICTの活用	「授業の中で、目標が示されている」という質問項目について、「はい」と回答した割合が80.2%で、県の平均を0.2ポイント、市の平均を4.3ポイント上回っている。また、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」という質問項目について、「はい」と回答した割合が64.7%で、県の平均を21.4ポイント、市の平均を22.9ポイント上回っている。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」という質問項目については、「はい」と答えた生徒が県や市より5ポイント程度上回っているが、「授業を集中して受けている」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」という項目においては、県や市より1～5ポイント下回っている。	授業の話し合う活動の中で、相手の話を課題意識を持って聞かせる工夫	発言しやすい雰囲気作りを更に工夫していくとともに、各教科の授業の話し合う活動の中で、自分から「話す」だけでなく、相手の話をよく「聞く」「訊く」ような場面を設定していくなど、話し合いが螺旋状にスムーズにかみ合っていく工夫をしていく。